

令和 6 年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立東粉浜小学校

令和 7 年 3 月

(様式 1)  
大阪市立東粉浜小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

## 社会に出て、夢をつかむことができる子どもを育てる

### 【 設定理由 】

アメリカの大学教授であるキャシー・デビッドソン氏によると、「2011 年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの 65% は大学卒業時に、今は存在していない職業に就くだろう。」と予測した。将来、グローバル社会になり、仕事の自動化、A I 化、I C T 化が加速する。

そんな社会で生き抜くには、自ら主体的に取り組み、指示待ちではなく、自ら解決する能力を持ち、クリエイティブな発想、創造、企画ができることが大切である。同時に、ロボットにはない、人間的感情、優しさ、思いやりに満ちた豊かな心も必要である。

そこで、夢を持ち、その夢の実現に向かって、見通しを持って努力を続けることができる子ども、自他ともに認めあい、支えあうことができる社会を担う子どもを育てることが、未来へとつながる教育と考える。

### 現状と課題

「安全・安心な教育の推進」では、常に児童に寄り添い、継続的、組織的に取り組み続けてきた。児童の言動から危機感を感じた時にはすぐに情報共有をし、組織的に対応を検討し、関係諸機関とも連携した結果、大きな問題になる前に落ち着きを取り戻すことができた。また、定期的に来校している SC や SSW とも連携を密にし、継続的な見守りを続けている。今後も、常にいつ再発するかもしれないという危機感を持ちながら見守り続けていく。さらに、一人一台学習者用端末を活用し、スクールライフノートの「心の天気」「相談機能」「いいとこみつけ」も日々チェックし活用をしていく。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、学力面では学力経年調査の標準化得点で、概ねどの学年もほぼ 100 を超えることができており、一定の学力の定着を図ることができている。体力面では、今年度から 3 年生以上で体育専科を取り入れたこと、シナプソロジーを取り入れた授業を実践したこと、頑張りカードが励みとなったことなどもあり、休憩時間等に外で体を動かしている児童を多く見るなど、一定の成果はみられている。ただ、高い気温が続き熱中症対策のため運動場に出られない期間が続く時期があったこともあり、コロナ禍で低下した体力が回復してきているとは一概には言えない。今後、学力面ではさらに読解力を伸ばし、まず自分の思いをしっかりと持ったうえで、コミュニケーション力をさらに磨き、周りの人に伝えあい、深めあえるように育んでいく。体力面では、系統立てた専科指導による計画的な体育学習を進めたり、意欲的に取り組んだりすることができる体育行事やそれに関連する頑張りカード、表彰などを工夫することで、より意欲的にすすんで体力向上に努めていくように働きかけていく。

「学びを支える教育環境の充実」では、今年度取り組んだリーディング DX スクール事業の成果と課題を踏まえて、より効果的に一人一台学習者用端末や ICT 機器を活用し、個別最適な学びに取り組み、協働学習で自分の考えをさらに深め、練り上げができる授業を工夫していく。また、引き続き、保護者・地域や関係諸団体と連携しながら、地域に古くから伝わる伝統文化等をはじめとする様々な教育的資源を学習過程に取り入れ、教科横断的な学習として活用することにより、郷土愛を育み続けていく。同時に、

専門家による「本物」を体験できる特別授業を数多く実践することで、心揺さぶる感動体験を引き続き取り入れていきたい。

#### 中期目標

##### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

##### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も令和3年度より4ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査において、「毎日決められた時刻に寝ていますか」「毎日決められた時刻に起きていますか」「毎日朝食を食べていますか」（早寝早起き朝ごはん）それぞれに対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

##### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ゆとりの日や午後6時までに全教職員が退勤する日を週1回以上設定する。
- 令和7年度末の校内調査において、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

##### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。  
(R5年度 76.3%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R5年度 84.6%)

○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。(R5 年度 84.6%)

○生活振り返りカード（東粉浜マイスターカード）の各項目について毎月保護者と児童が話し合い、学校や家庭生活を振り返り、自己の課題を明確にして改善に取り組む。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45%以上にする。(R5 年度 43.6%)

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 73%以上にする。(R5 年度 71%)

○令和 6 年度末の校内調査において、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上で維持する。

(R5 年度 早寝早起き 75.9%、朝食 96.1%)

#### 【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]

○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 93%以上にする。(R5 年度 92.6%)

○年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上を維持する。(R5 年度 84.2%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

「安全・安心な教育の推進」では、いじめによる重篤な事案が発生しないよう、常に児童に寄り添い、継続的、組織的に取り組み続けてきた。毎学期のアンケートのみならず、児童の言動から危機感を感じた時にはすぐに情報共有をし、組織的に対応を検討し、関係機関とも連携した結果、今のところ大きな問題にはなっていない。また、定期的に来校している SC や SSW とも連携を密にし、気になる児童を中心に継続的な見守りを続けている。今後も、常にいじめによる重篤な事案が発生するかもしれないという危機感を持ちながら見守り続けていく。さらに、子どものなかなか声にしにくい思いを、一人一台学習者用端末を活用し、スクールライフノートの「心の天気」「相談機能」「いいとこみつけ」も日々チェックし活用をしていく。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、学力面では学力経年調査の標準化得点で、概ねどの学年もほぼ 100 を超えることができており、一定の学力の定着を図ることができている。一人一台学習者用端末を「令和の文房具」として日常的に授業で活用し、持ち帰り家庭でも活用できている。ただ、二極化が広がっており、誰一人取り残さず学力の向上を目指すべく、一人一人の学びが今以上に深まる授業について引き続き研究を深めていく。また、体力面では、かけ足習慣やなわとび週間をきっかけに、体育の授業以外の時間でも体を動かそうとする意識が向上しており、ボール遊びだけでなく、さまざ

まな遊びを運動場するようになり、体を動かす習慣が定着しつつある。さらに、より意欲的にすすんで体力向上に努めていくように働きかけていく。

「学びを支える教育環境の充実」では、昨年度取り組んだリーディング DX スクール事業の成果と課題を踏まえて今年度研究したがんばる先生支援事業の実践により、今まで以上に効果的に一人一台学習者用端末や ICT 機器を活用し、個別最適な学びに取り組み、協働学習で自分の考えをさらに深め、練り上げができる授業を工夫してきた。また、引き続き、保護者・地域や関係諸団体と連携しながら、地域に古くから伝わる伝統文化等をはじめとする様々な教育的資源を学習過程に取り入れ、教科横断的な学習として活用することにより、郷土愛を育み続けていく。同時に、プロの音楽家の目の前での演奏や漫才師による直接指導、夢をかなえて仕事をされている方によるキャリア教育など、専門家による「本物」を体験できる特別授業を数多く実践することで、子どもたちの心搖さぶる感動体験を引き続き数多く取り入れていきたい。

(様式 2-1)

## 大阪市立東粉浜小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。(R5年度 76.3%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R5年度 84.6%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R5年度 84.6%)</p> <p>○生活振り返りカード（東粉浜マイスタークード）の各項目について毎月保護者と児童が話し合い、学校や家庭生活を振り返り、自己の課題を明確にして改善に取り組む。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p><b>いじめ・不登校への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや不登校など配慮が必要な児童の問題解決について、各学級担任・生活指導部長・養護教諭・管理職が連携して、組織的かつ外部機関とも連携しながら丁寧に対応していく。</li> <li>・いじめ（いのち）について考える日や道徳授業において、いじめ（いのち）について深く考える授業を行う。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮や支援の必要な児童について、スクリーニングシートの活用や共通理解の場を月一回設ける。</li> <li>・いじめ（いのち）について考える日や道徳授業において、学期に1回以上いじめに関する指導を行い定期的にいじめについて考える機会を設ける。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p><b>防災・減災教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災や地震・津波の避難訓練、引き取り訓練、不審者対応訓練、救急救命講習会などを計画し、区役所、警察、消防署などとも連携しながら、取組を進める。</li> <li>・子どもの意識を高めるため、防災学習に取り組む。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練、引き取り訓練、防災学習等、様々な状況を想定した命を守る学習を計</li> </ul>	

<p>画的に実施する。</p>	
<p><b>取組内容③【2 豊かな心の育成】</b></p> <p><b>自尊感情の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業や学級活動、他学年との交流活動を通して、自分のよさに気づいたり、仲間に認められたりする場を設ける。</li> </ul>	( ) <b>A</b>
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活振り返りカードにおいて、「まわりにいる人から、『ありがとう』や『すごいね』と言われたことがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上で維持する。(R5年度 94.0%)</li> </ul>	
<p><b>取組内容④【2 豊かな心の育成】</b></p> <p><b>道徳教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育の充実を図り、子ども同士が意見を交流することができる授業を展開するため、道徳教育推進教師による研修会などを活用して、学校全体での授業の方法や評価のあり方に対する理解を深める。</li> </ul>	( ) <b>B</b>
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳科における研修会などを活かし、1日学校公開日を年間1回の「道徳の日」と設定し、その日の様子をホームページに公開し、保護者や地域に発信する。</li> </ul>	
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
<p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 80.1%だった。肯定的に「思う」と回答した児童すべてでは 95.6%以上、また前年度の結果よりは 4 ポイント向上している。</p>	
<p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86.5%で目標にはほんの僅か届かなかった。前年度の結果よりは 2 ポイント向上している。</p>	
<p>○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%であった。子どもの発達段階により、まだ明確な将来の夢や目標をもてておらず探しているところのようである。</p>	
<p>○生活振り返りカード(東粉浜マイスターカード)の各項目について毎月保護者と児童が話し合い、学校や家庭生活を振り返り、自己の課題を明確にして改善に取り組むことができている。</p>	
<p>① 指標通りに目標は達成できている。配慮や支援の必要な子どもについて、共通理解の場が定期的に設けられ、全教職員で情報を共有していた。学期に1回はいじめに関する講話を全校朝会で行い、それに関わって必要に応じて、普段から「いじめ(いのち)について考える授業」を行うことができた。また、いじめアンケートの対応、共有は随時行ってきた。各担任によるスクリーニングシートの入力後、いじめ虐待防止委員会で、区役所の子育て支援、地域、スクールショーシャルワーカー、スクールカウンセラーと組織的に対応する体制が整い、それが機能する案件もあった。</p> <p>② 避難訓練、引き取り訓練、防災学習等、計画的に実施することができた。防災学習や交通安全指導では地域の方と連携することができた。また、不審者に対する避難訓練では警察の方と連携して取り組むことができた。さらに、避難訓練は昨年度の反省点を改善</p>	

したり防災リュックが具体的に活用できるように救急セットを追加・見直す等したり、よりレベルを上げた訓練をすることができた。

- ③ 友だちのいいところ見つけをしているクラスが多いことや、縦割り班活動や委員会活動、クラブ活動など他学年交流の場でお互いに頑張りや良さを認め合えている環境があった。またどの学年も自分の良さを考えたり、自己肯定感を高めたりするための学習や取り組みを行ってきた成果もあって、アンケート結果は 95.5%と目標よりも 10%以上高い結果となった。
- ④ 校内研修を通じて、指導方法や評価について教員が理解し、日々の授業に生かすことができ、計画的に実施できた。「道徳の日」の様子をホームページに公開することで、保護者や地域に取組を理解してもらい安心につながった。

#### 次年度への改善点

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」という認識をすべての児童がもてるよう、引き続き折に触れ指導を継続していく。
  - 「あなたのこんなところが素晴らしい」と他者をほめ、認める活動を継続し、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答することができるよう自尊感情を育んでいく。
  - 様々な「本物」に触れる機会を設けることで、児童の心を揺さぶり、「将来の夢や目標」をもつことができる児童を増やしていく。
- 
- ① スクリーニングシート項目の捉え方にばらつきがあったので、年度当初に共通認識し、気になる子どもを見ていく。また、不登校・不登校傾向のある子どもへのアプローチをどうするかを状況に合わせて対応する方法を探っていく。今後も全教職員・子どもに関わる学校外の方とも連携して、組織的に対応していく。いじめアンケートは、数値にとらわれず普段の子どもの様子をしっかり見ていく。さらに自分がしていることがいじめにつながることが認識できていない子どもがいることも気になるので、「いじめ（いのち）について考える日」に全学級で、いじめ防止教材の道徳の授業を実施することも検討していく。
  - ② 避難訓練で出た反省を来年度に生かしていく必要がある。具体的には、どの訓練でも児童に自分事と捉えられる工夫が必要である。また、不審者に対する避難訓練や地震及び津波の避難訓練は、今までの実践を踏まえ、定着するまで繰り返したり、スマールステップで目標を高めたりすることを話し合って決めていく必要がある。さらに、賞味期限を確認するなど、防災リュックなどの防災用具の点検を定期的に行っていく。
  - ③ 縦割り班活動の充実をさらに進めたり、各学年、学級においても、継続して自己肯定感を育むような学習や取り組みをしたりしていくことが大切である。また、それが実施している実践を交流できる場を工夫しより豊かな心を学校全体で育んでいく。
  - ④ 次年度も学校公開日に「道徳の日」を設定して、保護者や地域に発信する。その際に全学年で道徳教育全体計画をもとにテーマを決めて実施する。指標に具体的な数値がなく、評価判断が難しいという意見があったので、次年度は生活振り返りカードの数値を指標にいれる。

## 大阪市立東粉浜小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45%以上にする。(R5年度 43.6%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 73%以上にする。(R5年度 71%)</p> <p>○令和6年度末の校内調査において、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上で維持する。</p> <p>(R5年度 早寝早起き 75.9%、朝食 96.1%)</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p><b>「主体的・対話的で深い学び」の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究をすすめ、全学年で思考ツールを活用した主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業研究に取り組むと共に全教員が一人1回の公開授業を行い、全教員の指導力を高めていく。</li> </ul> <p>( )</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活振り返りカードにおいて、「授業で自分の意見を言ったり、友達と話し合ったりすることが楽しい」を肯定的に答える児童の割合を 85%以上で維持する。(R5年度 92.0%)</li> <li>・年度末の教員アンケートで「授業にICTを活用して指導する能力」の項目について、肯定的に回答する教員の割合を 80%以上にする。</li> </ul> <p>( )</p>	<b>B</b>
<p><b>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p><b>英語教育の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年週2回のフォニックス活動、3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科を中心とした決められた時間を、ヒアリングとアウトプットを意識して実施する。</li> </ul> <p>( )</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活振り返りカードにおいて、「英語の学習は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上で維持する。(R5年度 86.9%)</li> </ul>	<b>B</b>

### 取組内容③【5 健やかな体の育成】

#### 体力・運動能力向上のための取組の推進

- ・大阪府の体育応援・向上事業の取り組みや体力向上推進事業、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析も参考にしながら、体育科の学習時間内の運動量の向上、ならびに普段の生活の中での運動（外遊び）する習慣が身につくようする。
- ・体育的行事やチャレンジ大会、頑張りカードの活用、校内での表彰等、児童の体力向上への意欲をさらに高めていく。

A

( )

#### 指標

- ・毎月の生活振り返りカードの運動（外遊び）をしたと肯定的な回答をする児童を85%以上を維持する。（R5年度 86.0%）

### 取組内容④【5 健やかな体の育成】

#### 健康教育・食育の推進

- ・児童の規則正しい生活習慣が身に付くよう、「早寝早起き朝ごはん」をキーワードに、指導と啓発を行う。

C

( )

#### 指標

- ・生活振り返りカードにおいて、各家庭で決めた時刻で「早寝・早起きができるいる。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上で維持する。

（R5年度 早寝早起き 75.9%、朝食 96.1%）

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は42.1%だった。肯定的に「思う」と回答した児童すべてでは95.6%以上であった。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75.5%で目標を達成できた。

○令和6年度末の校内調査において、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合は97.3%と目標を達成できた。「早寝・早起きができるいる。」に対して肯定的な回答をする児童の割合はほぼ昨年同様の73.3%となった。

①校内研究をすすめ、全学年で思考ツールを活用した主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業研究に計画通り取り組み、がんばる先生事業や住吉区教員研究発表会にて研究の内容を広めることができた。また研究視点の中にICTを効果的に活用することを位置づけ、教員と児童と両方の情報活用能力を高めるようにした。その結果、生活振り返りカードにおいて、「授業で自分の意見を言ったり、友達と話し合ったりすることが楽しい」を肯定的に答える児童の割合は92.2%に、「授業にICTを活用して指導する能力」について肯定的に回答する教員の割合は78.5%となった。ICTの指導力の意識に関しては指標の80%に届かなかったが、年度初めと比べると8%以上上がっているので研究の成果は見られた。

- ② 朝の英語タイムや授業は、計画通り進めることができた。生活振り返りカードにおける「英語の学習は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は 89.8% になり目標を達成することができた。全学年 C-NET と関わる機会を設定し、3 年生以上の授業だけでなく、低学年でも給食などの時間を活用し、授業以外でも英語でコミュニケーションを取れる機会とした。また、今年度は英語の掲示板を作成し、季節やテーマに沿った英語に毎日触れることができるようにするとともに、子どもたちが参加できるような工夫も行ったことで、楽しく英語を学ぶ機会になった。ただし、例年と変わらず、高学年の割合は低いので、高学年が楽しいと思えるような活動や授業形態などは、今後も模索、研究していく必要がある。
- ③ かけ足週間やなわとび期間をきっかけに、寒い日でも外遊びをする児童が増え、体育以外の時間でも体を動かそうとする意識が向上している。生活振り返りカードにおいて「運動（外遊び）をした」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は 92.8% と目標を達成することができた。児童は楽しみながら体を動かし、ボール遊びだけでなく、遊具やおにごっこなど様々な遊びを行っていた。一方で、外運動する機会は確保されているものの、ほぼ 1 日室内でパソコンを使用する時間が長い児童もいることが課題が残る。
- ④ 生活振り返りカードにおいて、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合が 73.3% と指標を下回った。年度当初に各家庭で決めた時刻が実態と合っているのか確認が必要であるが、習い事や家庭環境で左右されるのが実情である。また、起床時刻が遅く、登校時間に間に合わないことが常習化している家庭もある。「毎日朝食を食べている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合は 97.3% となり、100% の学年もある。今年度は「早寝早起き朝ごはん」について、学校全体としての具体的な啓発をすることができなかった。

#### 次年度への改善点

- 話し合い活動は、どの教科学習でも積極的に取り入れ、児童の学ぶ姿として定着している。一方、考えを「深める」という点に関しては、今後の引き続きの課題である。
- 引き続き体力向上につながる実践を継続していく。
- 子どもの健全な心身の成長を守るため、家族で話し合って決める「寝る時刻」「起きる時刻」を明確にし、各家庭において規則正しい生活ができるように具体的な目標設定を見直すとともに、「毎日朝食を食べている」児童の割合は 100% となるよう、さらに各家庭に啓発し続けていく。

- ① ICT の授業への活用方法に関する実践的な交流会の機会を設ける、本校の研究と関係する研修会の情報を積極的に紹介するなど研修の機会を充実させることで「授業に ICT を活用して指導する能力」に対して肯定的に回答する教員の割合を増やしていく。また ICT の活用を目的とするのではなく、対話を通して自分の考えなどを練り上げる力を向上する視点を大切にして研究に臨んでいくようとする。
- ② 今後も計画的にすすめしていくことで継続し、現状を維持する。T2 としての C-NET との連携をすすめるとともに、C-NET の活用を積極的にすすめる。音声機能や端末も使いながら、授業を考えることで指導の方法の幅を広げたり、教職員間での実践交流や研修会を開いたりすることで教職員の指導法を今後も高めていくようとする。
- ③ 頑張りカードや表彰、委員会の児童による動画が意欲向上につながっており、今後も継続して取り組んでいく。継続的な指導を加え、外遊びが自然にできる環境づくりが求められ、特に外に出たくなる工夫や仕掛けを取り入れることで、全く外に出ない児童も少

しづつ外に出られるようになることが課題である。

- ④ 早寝早起きに関しては習い事が大きく関係していると考えられるが、夜遅くまで動画視聴やゲームをしている児童も少なくない。家庭と連携して状況を知ることも今後必要となってくる。学校でできることは多くはないが、委員会活動や授業で成長と睡眠の大切さを学習する活動を今後取り入れたり、家庭へ啓発を続けたりする必要がある。

## 大阪市立東粉浜小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を93%以上にする。(R5年度 92.6%)</p> <p>○生活振り返りカードにおいて「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上を維持する。(R5年度 84.2%)</p>	<b>A</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【6 教育DXの推進】</b></p> <p><b>ICTを活用した教育の推進</b></p> <p>○主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を進めるとともに、大型モニターやPC、一人一台学習者用端末の活用に努め、ICTを有効活用した授業を学年の発達段階に応じて推進する。</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活振り返りカードにおいて、「デジタル教科書やパソコンなどを使って学習したことがよくわかった」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</li> </ul>	<b>A</b>
<p><b>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p><b>働き方改革の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務時間を減らし、教職員の健康管理をすすめる。</li> <li>・教科担任制や、SSSの活用、学校行事の精選や会議時間の短縮に努める。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりの日や午後6時までに退勤する日を週1回以上設定する。</li> </ul>	<b>B</b>
<p><b>取組内容③【8 生涯学習の支援】</b></p> <p><b>「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが読書を好きになる仕掛けをできることから積極的に取り組んでいく。(読書タイム、おすすめ本の紹介、読み聞かせ、本の帯づくり等)</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活振り返りカードにおいて、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上で維持する。</li> </ul>	<b>A</b>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、1月末で79.2%であった。</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合は96.5%であった。</p> <p>○生活振り返りカードにおいて「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は91.2%と高い結果となった。</p>
<p>① 昨年度の取り組みに引き続いて、児童は学習ツールとしてICTを十分に活用できる情報活用能力が上がっている。また、教職員へ情報活用の研修を実施し、授業での活用に活かすことができた。その結果、生活振り返りカードにおいて、「デジタル教科書やパソコンなどを使って学習したことがよくわかった」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が95.2%と目標を上回ることができた。</p> <p>② 教職員一人ひとりが時間外勤務時間を減らそうという意識は高まっている。昨年度に引き続いて教科担任制の導入、SSSの活用により、授業準備時間の確保や業務量を減らすことができている。また、ICTを活用し、職員会議の内容を各自で事前に見ることができるので会議を減らすことができた。</p> <p>③ 図書委員会が中心になって、読み聞かせや本の福袋、表彰などの企画がされていて、全校児童への読書の啓発になっている。また、図書館司書や地域団体等と連携したり、昼休みの図書館開放も週5日実施されたりしている。その結果、生活振り返りカードにおいて、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が91.2%と高い水準を維持することができた。</p>
次年度への改善点
<p>○どの学年も一人一台学習者用端末を「令和の文房具」として授業中にもよく使用するとともに、持ち帰り家庭でも活用しているにも関わらず、このような低い数値となっていることに疑問が残る。</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1は昨年度よりも数値が低くなってしまっており課題である。1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないように工夫していくとともに、端末を持ち帰り業務を行っている教員もいるので、業務軽減となるような工夫を検討し続けていく。</p> <p>○活字離れが進まないように、引き続き様々な読書が好きになる仕掛けを工夫していく。</p>
<p>① 一人一台学習者用端末を使って授業をすることは前提になってきている。次年度も引き続き、より有効的な一人一台学習者用端末の使用方法を研鑽していく。その際には、主体的・対話的な深い学びにつながる授業法についての実践的な指導法を教員で交流し、共有していく必要がある。</p> <p>② 今後もSSSを活用していく、真に「子どものためになる」学習・行事・業務の精選（例えば紙のアンケート廃止など）を考えていく。また、生成AIの効果的な活用を進め、文章の要約やアンケートの集約などで活用をしていくことで、業務量を削減していく。</p> <p>③ 本年度の取り組みの継続しながら、児童が興味を持つ本の選書やイベントのさらなる充実、読書時間の確保と充実について考えていく。また、今年度活用できなかった地域図書館の集団貸し出しを再度活用していくなど引き続きより多くの図書と触れ合う機会を維持していく。</p>

## 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

## 1 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	「学校生活のやくそく」を見直し共通理解するとともに、東粉浜小学校学校安心ルールの策定・実行を柱に、児童の規範意識の向上、自己肯定感の育成に重点を置き、学習指導・生活指導に取り組むとともに、家庭に啓発し早寝早起き朝ごはん等の基本的な生活習慣の啓発に取り組み続けた結果として、今年度も暴力行為の発生がなかったことが成果である。また、昨年度から年間を通してたてわり班活動を取り組み、横だけではなく縦のつながりも意識するようになったことで、より一層上の学年が下の学年に優しくしたり、下の学年が上の学年にあこがれを抱いたりするようになってきており、自尊感情を育むとともに、学年を越えて互いを受け入れる土壌が熟成しつつある。
② いじめの状況等	毎学期のアンケートや児童の観察・聞き取り等からいじめを認知した時点で、素早く担任による聞き取りをした。スクリーニング会議を毎月行い学校全体で児童の実態や課題を共有した。「いじめ」に対する定義を児童にわかりやすく伝えやすく伝えたことで、結果、昨年度よりもいじめの認知件数が増えている。教職員も「いじめはいつどこでも起こり得る」ということを危機意識としても、小さな「芽」を感じたらすぐに情報を共有し、組織的に対応し、問題がすぐに解消するよう、複数の目で見守り・指導・支援を続け、仲間作りについて継続的に指導した。現在児童は落ち着いているように見えるが、今後も引き続きなお危機感をもって指導を継続している。
③小・中・義務教育学校における不登校の状況等	不登校傾向にある児童には、保護者とも連携し、子どもに寄り添い、励まし、粘り強く指導、支援をし続けている。必要に応じて、本人や保護者が安心できるように外部機関ともつなぐなどしている。また、スクリーニング会議を活用し、担任、管理職、関係教員等が連携して対応しており、必要に応じてスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーをはじめとする関係諸機関とも情報共有しながら対応している。

※ 両表とも、小・中・義務教育学校は①②③の項目について、それぞれ記入すること